

10/19 朱鷺

円安

一時 149 円台

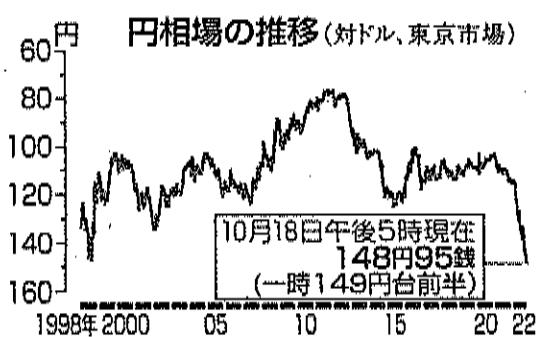
1カ月足らずで9円進行

十八日の外国為替市場で円安ドル高が進み、一時一ドル＝一四九円台前半を付けた。バブル景気終盤の最安値圏だった一九九〇年八月以来、約三十二年ぶりの安値を更新した。九月二十二日の介入では一時一四〇円台前半を付けたが、一ヶ月足らずで九円近く円安が進行。一ドル＝一五〇円の大台

が目前に迫つており、市場では再度の為替介入への警戒が高まつた。〔関連①面、論説⑩面〕

東京市場の午後五時現在場では、十五日のバイデン大統領のドル高容認発言を背景に低金利で資産運用に不利な円が売られた。日銀の黒田東彦総裁が大規模金融緩和を維持する考えを繰り返し示していることも、大幅利上げにまい進する米連邦準備制度理事会(FRB)との政策の違いを意識させ、一時一ドル＝一四九円

円相場の推移(対ドル、東京市場)



岸田文雄首相は十八日の国会答弁で「投機の絡んだ過度な変動には適切な対応を取る。従来の考えはいささかも変わりはない。緊張感を持つて動向を見る」と述べた。

○九銭を受けた。
流れを引き継いだ十八日の東京市場では一ドル＝一四九円前後を中心に推移。その後のロンドン市場では、円安が進み一ドル＝一四九円前半を付けた後に急速に一

上升。一ドル＝一五〇円の大台を突破した。外為プローカーは「政府要人の円買けん制発言には一定の効果があるが、円を積極的に買う材料がない状況は変わらない」と指摘した。